

2014年

5月号



# 青雲会会報

seiunkai 60th anniversary

## 平成26年度 青雲会60周年記念総会のご案内

### 講演会 ① のテーマ

#### 「薬局から始める地域医療イノベーション」

“高齢化が進む日本の医療制度への提言”

講師 ファルメディコ株式会社 代表取締役社長 狭間 研至 氏

### 講演会 ② のテーマ

#### 「報道について思うこと～ゆがむ事実像」

講師 弁護士 30期 前青雲会会長 三木 秀夫 氏

### 日 時

平成26年7月19日(土) 13:00開会

- 13:00 - 13:30 総会議事
- 13:35 - 14:15 講演会 ①
- 14:20 - 14:50 講演会 ②
- 14:55 - 17:00 懇親パーティー

### 会 費

8,000円(卒業後5年以内 2,000円 学生 1,000円)

ご出席の方は、会費の前納をもって申込みとさせていただきます。  
同封の払込み用紙をご利用ください。

■払込み期限 6月30日(月) [必着]

### 場 所

#### 太閤園

大阪市都島区網島町9-10  
TEL 06-6356-1110

JR東西線大阪城北詰駅  
(3号出入口)より徒歩1分

京阪京橋駅(片町口)より  
徒歩7分



### 講演会 ① の講師



ファルメディコ株式会社 代表取締役社長

#### 狭間 研至 氏

- [略歴]
- 昭和44年生
  - 平成 7年 大阪大学医学部卒業  
以後大阪大学医学部付属病院、  
大阪府立病院、宝塚市立病院で  
外科・呼吸器外科診療に従事
  - 平成12年 大阪大学大学院医学研究科臓器  
制御外科にて異種移植をテーマと  
した研究及び臨床業務に携わる
  - 平成16年 同修了後、現職

### 講演会 ② の講師



弁護士 30期 前青雲会会長

#### 三木 秀夫 氏

- [略歴]
- 昭和30年生
  - 昭和57年 大阪大学法学部卒業
  - 昭和59年 大阪弁護士会登録
  - 平成 3年 三木秀夫法律事務所設立

## 青雲会会長 ご挨拶



会長 野村 史郎  
(27期 和田哲株式会社  
代表取締役社長)

日頃は青雲会活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。  
また、昨年度の法学部創立60周年、高等司法研究科創立10周年、青雲会設立60周年記念事業にあたり、皆様に寄付のお願いをさせて頂きましたところ、目標10百万円に対して13百万円以上の寄付を頂きました。重ねて御礼申し上げます。

「法経講義棟設備基金」については既に3百万円を耐震改装後の法経講義棟の視聴覚設備購入の一部に充当させて頂きました。「キャリア支援基金」については大学と青雲会・法曹会でキャリア支援基金運営委員会を立ち上げ、学生諸君の進路相談に対応できる体制作りをスタートしました。皆様から頂いた貴重な篤志を有効に活用させて頂くように引き続き大学と協力して参ります。

さて、同窓会という組織の重要性は従来以上に増してきていると思います。大阪大学も本部に卒業生室を設置するなど、全学を上げて同窓会組織との協力体制の強化を図っています。ところが翻って青雲会が十分な活動が出来ているかと言うと難しい問題です。学生向けの懸賞論文の賞金や司法基金への補助、留学生への奨学金

などの活動をしています、会員各位の会費がその原資の中心です。事務局から会費納入のお願いをしていますが、納入率は全体で約10%です。年次によっても大きく違ってきますし、納入率は低下傾向にあり、赤字解消のために支出を減らし、事務局からの督促で何とか維持しているのが現状です。

青雲会としてもより積極的に卒業生、在学生に対する施策を検討したいと思います、その原資である入会金と年会費の納入率を引き上げることが課題となっています。各期の未納者には事務局と各期の幹事連名でご案内をさせて頂き、一方で年会費を3年間未納の方には会報の送付を休止させて頂くことなど会費に関する制度の見直しを幹事会で決定致しました。

青雲会としても従来以上にPRに努めて参りますが、何卒、青雲会の活動に皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げますと共に、青雲会をより積極的に活用頂くことをお願い申し上げます。最後になりましたが会員の皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

## 青雲会名誉会長 ご挨拶



大阪大学大学院法学研究科長  
大阪大学法学部長

竹中 浩

日頃は法学研究科・法学部の教育研究に対して御理解と御支援をたまわり、ありがとうございます。この4月から、法学研究科長・法学部長の職を、もう1期、務めることになりました。学生支援の強化とグローバル化への対応という年来の課題に、引き続き取り組んでいく所存です。

本年3月、創立60周年の行事も無事終了し、法学研究科・法学部は新しい60年に向かって歩み出しました。記念事業として、青雲会の皆様のご寄附により実現したキャリア支援の枠組みもいよいよスタートします。これによって青雲会と大学との関係は新しい形をとることになるでしょう。現役の学生や若い卒業生・修了生たちに青雲会が身近に感じられるよう、大学としても精一杯の努力をしていきます。

この国にとって、そして大阪大学の法学系教育研究機関にとって、これからの60年がどのようなものになるのか、想像もつきませんが、グローバル化がますます進むことだけは間違いのないでしょう。それにつれて、阪大に入ってくる留学生の数も増え、青雲会にも、多くの外国人会員が生まれるはずで、外国に青雲会の支部ができる日も、あるいは遠くないかもしれません。

いかなる時代になろうとも、合理的なルールを作り、それを使って社会を動かしていく人を育てる法学系教育研究機関の役割が重要性を失うことはありません。法学研究科・法学部がその役割をきちんと果たしていけるよう、微力ながら、努めていきたいと存じます。さらなるお力添えのほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

## ■ 青雲会60周年に寄せて



国際公共政策学科長  
村上 正直 (28期)

青雲会60周年の祝辞を述べるのが私の役割なのかもしれませんが、私自身が青雲会の会員ですので、自分が属する組織を祝うことに終始するのも変です。そこで、青雲会会員の活動の一端と、法学部の現状とをお伝えしたいと思います。

私は、4月から国際公共政策研究科の研究科長となり、それとともに法学部副学部長と法学部国際公共政策学科長となりました。国際公共政策研究科の発足は1994年(20周年!)で、私は10人目の研究科長です。青雲会会員で研究科長を務められた方は、私を含め5名になります。半分です。それが研究科の舵取りをし、また、これからするというようになります。他方、国際公共政策学科の発足は2008年で、国際公共政策研究科長が副学部長と学科長を兼ねることになりました。私の3代前の研究科長であった床谷文雄教授が、青雲会会員にして初代の学科長です。私は、会員で学科長となる2人目です。

国際公共政策学科は、この3月で3期生を社会に送り出しました。1学年80名で、法学科の半分ほどです。しかし、「多数者」である法学科と異なる、独特のカラーをまとっていると私には感じられます。学科長としての私は、その独自性を大事にしたいと思っています。そして、そういったカラーをもつ卒業生が、法学科の卒業生とともに、将来の青雲会を担っていくことになります。楽しみです。

## ■ 高等司法研究科長 ご挨拶



高等司法研究科長  
三阪 佳弘 (31期)

この4月から、高等司法研究科長を務めさせていただくことになりました。

創設10周年を迎えた本研究科は、法科大学院として社会のニーズに応える新たな教育的展開が求められています。そこで、より魅力ある法科大学院となるために、法学部との連携強化による学部教育=法科大学院を通じたSeamlessな一貫教育の実現、文理融合教育・グローバル教育・知的財産センターと連携した臨床法実務教育といった大阪大学ならではのSpecialityの付与を目的とした教育プログラムの開発に取り組んでいるところです。また、大学での学びが、将来のキャリアデザインにどのようにつながっていくかを学生に考えさせるための教育プログラムの構築も重要性が高まっています。この面では、皆さまのお知恵とお力をさまざまにお借りしなければならないと考えています。

本研究科は、すでに750名の修了生を社会に送り出し、司法試験に合格した者は400名に及ぼうとしています。創設初期の修了生たちは、法曹界はいまでもなく、企業、公的機関の第一線で活躍しています。本年3月には、修了生たちの有志で、高等司法研究科修了生の同窓会も立ち上げました。この組織の運営面では、大先輩である青雲会にご協力をお願いしなければなりません。

法科大学院制度が新たな曲がり角を迎えるなか、高等司法研究科は新たな展開を展望しようと努力しております。青雲会の皆さまには、引き続きご支援いただきますとともに、ご指導ご鞭撻のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

## 大阪大学法曹会よりのお知らせ

### 1. 平成25年度 行事報告

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| ① 後援基金に対する資金援助       | 80万円         |
| ② 合格祝賀会の開催           | 平成25年10月21日  |
| 大阪弁護士会館にて実施 合格者50名参加 |              |
| ③ 就活懇談会 実施           | 祝賀会 同日に実施    |
| ④ 大学との懇談会            | 平成25年5月16日実施 |

### 2. 平成26年3月31日現在の会員数

大阪弁護士会	469名
首都圏弁護士会	108名
その他弁護士会	210名
判事・検事	109名
教員	62名
計	958名

### 3. 役員 期の途中でしたが下記の方をお願いすることになりました。

会長	森信 静治 (30期)
副会長(会長代行)	三木 秀夫 (36期)
全 (事務局長)	福田 健次 (36期)
監査役	室谷 光一郎 (新62期)
監査役	三成 賢次 (大学)

※この期は司法修習期です。

事務局	堂島法律事務所 06-6201-0444
事務局分室	青雲会 内 06-6850-5198

### 4. 名簿

平成24年9月に初めて発行いたしました。その後、いろいろ情報をいただきましたので修正し、本年9月に第2回目の名簿を発行する準備をいたしております。事務所等変わられた方は、必ず事務局にご連絡ください。

## ■ 平成25年度総会報告



日 時：平成25年7月13日(土) 午前10:30開会  
10:30-12:15 総会・講演  
12:20-14:00 懇親パーティー

会 場：大阪大学会館(旧イ号館)

講 師：大阪大学総長

**平野 俊夫氏**

講演テーマ：

**「大阪大学と共に47年:1966-2013」**

平成25年度の総会は100名弱の会員の皆様にご出席いただき、盛会のうち総会を終えることが出来ました。

講演では、平野総長から「大阪大学と共に47年」と題して、ご自身の専門である免疫学のお話をされ、未解明だった免疫物質の研究を続け、他の医師が捨てる胸水の分析を続けた1978～86年はトライアンドエラーの連続。ついに86年5月にインターロイキン6を発見し「目の前の山を登りきることが大切」頂上までは何も見えない。頂上に立って初めて次の山や山の向こうの景色が見える。夢は叶えるためにあると実感を込めて話され、聴衆一同深い感銘を受けました。

懇親パーティーは元会長の谷川秀善氏の乾杯で始まり、そして

吉本名誉教授をはじめ多数の先生方にもご臨席いただき、代表して吉本名誉教授にご挨拶頂き、次いで東京支部長杉政氏及び名古屋支部長平野氏からそれぞれ支部の活動報告が行われました。

続いて、青雲会懸賞論文受賞者紹介、留学生奨学金授与者紹介・報告等が行われ、盛沢山の挨拶・報告等が滞りなく進行して、盛会のうちに山本副会長による中締めとなり、大阪締めを披露してお開きとなりました。

散会后、ご希望の方には大学会館5階の来賓室をご見学して頂きました。

## ■ 卒業修了祝賀会

3月25日(火)、卒業式があり、法学部法学科より169名、国際公共政策学科より84名法学部計253名、法学研究科より54名の合計307名が卒業されました。

卒業修了祝賀会は、竹中法学部長の祝辞と星野国際公共政策学科長の乾杯で懇談に入りました。

その後青雲会懸賞論文の入賞者表彰式を行いました。野村会長から1席の板谷俊亨外1名(公4)を始め2席1名、佳作2名、新人賞1名の合計5名が表彰され、卒業生の皆さんから祝福を受けられました。

この会は、青雲会が主催ですが、当日の運営は法律相談部・法学研究会を中心に法学部の文化サークルに所属する学生が行い、今年もボンゴゲームで盛りあがりしました。当日の飲み物(ビール)はサントリーグループの(株)ダイナックさんにご寄贈いただきました。お礼申し上げます。

当日の参加者は先生方を含め231名の沢山の参加となり、記念写真の撮影が3つに分かれることになりました。



## ■ 歴代青雲会会長 60周年記念のお言葉

### 50周年記念当時の会長として

12期 宿 敏幸

何も知らず青雲会の会長を引き受けたら2年目が50周年で、記念事業をせねばならない立場になりました。丁度その頃法科大学院が設立されたので、それを支援するという事で進めたところ、皆様のご支援で1000万円の基金が集まり、大学院に提供しました。次に12期で銀行出身のプロの画家疋田氏に依頼し、聖徳太子が馬に跨り、原野を見渡す雄大な壁画を格安で製作していただき、学部内の壁にかかげられています。現役の諸君には是非見ていただきたい。

### 青雲会のさらなる発展と60周年寄付の成果を期待する

15期 中川 清孝

私が青雲会会長に就任したのは、50周年が終わり、法科大学院がスタートした年度でした。いわば60周年に向かっのスタート年だった訳です。

前年50周年記念で集めた寄付金の内の約3分の2にあたる1000万円を『基金』を通じて法科大学院の助成金に充てさせて頂きましたが、青雲会としては多くの会員のご芳志である関係上、当時その使用状態について、かなりの苦言を呈したことも、今ではずいぶん昔のことのようです。

大学には60周年の、法科大学院には10周年のお祝いを申し上げますと共に、60周年の寄付金に関しても、ご芳志を頂戴した多くの青雲会会員に喜んでいただけるような成果とご報告を期待しています。

青雲の庭に六十年(むそとせ)重ねつつ またあらたしき道をあゆまな  
継ぎ継ぎで行かめともにし青雲の 万花千葉いやときじくに

### 青雲会創設六十周年おめでとうございます。

18期 森内 賢一

人と人とのつながりには色々なものあれど、同窓の先輩後輩・同期などのつながりは格別なものにて大切にしたいもの。青雲会はそのつながりを基本に母校の発展や現役学生への支援など活動の場を広げて来られました。益々のご発展をお祈り申し上げます。

### 60周年おめでとうございます

24期 森信 静治

青雲会60周年おめでとうございます。今我々の世代はまさに同窓会世代です。企業や組織に就職した友人の多くはリタイアして、人恋しくなる時期を迎えています。同窓生が第2の人生を楽しく豊かに過ごしていけるよう参加しやすい同窓会をめざしてほしいと思います。また、阪大は外大との統合により国立大学としては最も国際化しています。この特色を生かして活動面でもグローバル化をはかってますます発展してほしいと思います。

### “まちかねで 夢を見た日々 青い雲” 青雲会の更なる発展を祈ります。

30期 三木 秀夫

青雲会が発足して60周年を迎えましたこと、会員すべての方々とともに心からお祝いしたいと思います。60年の間には、大学も社会も時代とともに変化してきました。青雲会もその間、着実に仲間を増やし、同窓の交流だけでなく、大学の発展にも、ささやかながら貢献を果たしてきたように思います。

私たちの心の故郷である本会と母校が、これからもさらに発展していきますよう、心から祈ります。

## 平成25年度青雲会行事報告

平成25年度の青雲会行事の概要は下記のとおりです。

### 1. 総会

平成25年7月13日(土)大阪大学会館にて開催いたしました。  
詳細については、4ページの報告をご覧ください。

### 2. 留学生への奨学金付与

本年度は、馬 榮陽さん(中国出身)に決定いたしました。  
なお、馬さんのことについては、9ページの座談会をご覧ください。

### 3. 懸賞論文

今年度は21名から応募があり、以下のとおり決定しました。  
各受賞論文は青雲会HPに掲載しておりますので、ご覧ください。

- 1席** 板谷 俊亨 君(公4) 外1名  
「児童虐待防止法の法的効果に関する比較分析」
- 2席** 田頭 典子 君(法4)  
「民主党議員の離党行動について」
- 佳作** 芦谷 圭祐 君(法4)  
「都市の限界」論再考  
- 地方政府をめぐる環境の変化に注目して -
- 佳作** 中平 麻友 君(公4) 外3名  
「国際競争力向上のための英語政策」  
- TOEFLスコア・JGSS個票を用いた実証分析 -

**新人賞** 塩野谷 英明 君(法1)

「水銀に関する水俣条約に関する一考察」

### 4. 幹事会

4月26日、6月21日、9月4日、12月5日、2月25日に開催しました。  
参加人員は毎回30名前後の幹事が出席し、青雲会の運営方針を決定しています。

### 5. 法経OB・OG交流会

今年も11月10日(日)午後3時~7時30分 大阪大学中ノ島センターにおいて経済学部同窓会と共に学生の就職支援を図るための法経OB・OG交流会を開催しました。当日参加した卒業生は42名でその内法学部は19名、学生は37名でその内法学部は4名でした。法学部生がもっと多く参加できるようPRに努めます。

### 6. 卒業修了祝賀会

今年も準会員であった学生を正会員として迎える青雲会主催の記念パーティーを、3月25日に開催しました。詳細については、4ページの報告をご覧ください。

以上

## 同 期 会 開 催 報 告

### 昭和29年入学同期会 新制6期

昭和29年入学の同期会を2月20日(木)大阪梅田の関西文化サロンで開催しました。

今年は昭和29年入学以来ちょうど60周年の節目の年に当たりますが、今回も東京、九州、岡山などの遠方から同期生が駆けつけてくれ、21名が元気に勢揃い、青春時代の思い出話を花を咲かせました。

来年も2月19日(木)に同じ場所で再会することを約し散会しました。



### 11期生卒業50周年記念同期会開催報告



11期生は卒業50周年記念同期会を、25年5月18日と19日の2日間にまたがって行った。全国から38人が集まり、まず豊中キャンパスを訪問した。青雲会事務局の黒田氏の案内でよく整備された構内を歩き、イ号館だった大阪大学会館をはじめ、青雲会寄贈のモニュメントなどを見て周った。キャンパス内外に建物は増えたが、樹木も大きく成長して緑豊かな学園の佇まいが、半世紀の時の経過を映していた。夜は、近くの箕面観光ホテルで歓談した。二日目は大阪市内を水上から眺める「なにわ探検クルーズ」に参加して、大阪の歴史と今を再発見した。11期生同期会は当面は毎年続けることを確認、来年は5月22日と23日に横浜で開催と決まった。

## 新制12期生同期会開催報告

さる4月19日(土)12時から、天満橋、大阪キャッスルホテルの中華料理店「錦城閣」にて新制12期生の同期会を開催いたしました。今年で母校卒業後50年～半世紀～が経過。

同期会の形ではフィナーレになるでしょうか、近畿、関東、中部、西は岡山等各地からも旧友20名が参集。中には卒業後50年振りに出席した同期生もいて、懐かしく肩をたたき合って、旧交を温め合い、最後に母校の全寮歌、学生歌で氣勢を上げ、各人の健康と母校のさらなる発展を祈念し、賑やかで楽しく有意義な12期生最後の同期会を開催いたしました。



## 昭和44年入学同期会



昨年7月14日～15日新島譲が渡米前に上陸した倉敷市玉島で同期会を開催しました。全ての段取りは笹山さんがして下さいました。

中国地方を中心に11名参加、今回初めての方もいらっしゃいました。宿泊は国民宿舎「良寛荘」翌日地元の名士に西爽亭、羽黒神社、老舗の味噌・醤油醸造所など開港355年を迎えた港町玉島を案内して頂き、まるで大人の遠足の趣でした。

## 昭和47年入学還暦同期会

12月21日(土)大阪駅前のヒルトンプラザ内「たちばな」でS47年入学者の還暦を記念した同期会が開かれました。当日は北は仙台、南は佐賀からも駆けつけ総勢48名が参集しました。(写真には写っていませんが女性2名も参加しています)卒業以来初めて会う人もいて、本当に懐かしかったです。皆さん話が盛り上がりあまり食事に手がつけれなかったようでした。次回は大阪では2014年12月20日(土)13時から、場所は大阪大学内で行うことが決まりました。前回集まれなかった方も参加ください。また東京地区でも来年に(大阪と時期をずらして)同期会をやることになりました。



## 同期会の開催報告

青雲会は皆様方の同期会の開催を支援しています。

- ・ 入学同期の会員情報の基礎データを提供いたします。
- ・ 同期会幹事の方は事務局にご一報ください。
- ・ 同期会の開催案内と開催結果報告をHPに掲載します。
- ・ 新判明会員情報を事務局にご連絡願います。

## 東京支部だより

東京支部長 杉政 静夫(21期)



### 東京支部 連絡先

〒160-0004  
東京都新宿区四谷1-9 天龍ビル5F  
杉政静夫法律事務所内  
TEL 03-3355-6575 FAX 03-3355-6576

過去1年間の活動報告をします。経済学部同窓会(待兼会)東京支部との合同講演会を始めて7年経ちました。春(5/31)は待兼会が中心で講師は阪大経済研究所教授小野善康氏。演題は「成熟社会の経済に必要な発想の転換」、成熟社会の経済構造とそこで行うべき政策はどうあるべきか話されました。秋(11/4)は総会と同時開催となるので、当方が主催で講師は日本観光振興協会理事長見並陽一氏(法学部新制22期)にお願いしました。演題は「観光と地域振興」です。観光は明治時代から日本をPRするという広報的役割を持っていたこと。また地域経済を活性化する役割も持っていることを解説いただきました。

また去年は「青雲流る(二)」を発行しました。支部同人の現役時代の思い出話や、リタイヤ後の「第二の人生」を綴った随筆集で、一口に「法学部卒」と言っても、さまざまな職業に就き、さまざまな生き方をしている同人が多いことを知ることができました。(希望者には千円でお送りしています)

その他では年2回の青雲会ゴルフコンペ(場所はデイスターとアスレチックGC)、年2回の待兼会との合同コンペ場所は昭和の森GC)を実施しました。これからも活発な同窓会活動をして行きたいと思っています。

## 名古屋支部だより

名古屋支部長 平野 修義(10期)



### 名古屋支部 連絡先

〒464-0072  
名古屋市千種区振甫町3-26  
平野 修義  
TEL&FAX 052-711-1008

### 25年名古屋待兼会活動状況

当年も経済学部同窓会と協力して「名古屋待兼会」を運営いたしました。

年末にかけて登録会員を再確認した処、合計136名 法学部が32名、経済学部は52名他学部が52名で、下記当年の例会、総会出席者数は計105名でした。

2,4,6,9月の例会では「どうなる?!今年の株式市場」「3年4月ぶりに国会にもどってみると」「県名の由来を紐解く」「ホタルの一生」の各テーマで同窓生の30分ショートスピーチがありました。

毎回スピーチの後は約2時間 酒食、懇談、雑談を楽しんでおります。

11月16日の総会には、法学研究科長、法学部長の竹中浩先生に御出席頂き、「創立60周年記念事業」「学生の就職活動」などについて卒業生による支援のお願いがありました。青雲会会長 野村史郎さんにも御参加頂き、参加者全員1分自己紹介するなど和やかな雰囲気総会を終える事が出来ました。(写真)

26年も充実した行事を実施致しますので、東海地方同窓生のご参加をお待ちしております。なお年2回春秋開催のゴルフ同好会は参加者が少なく、当面の間休会する事となりました。

### 囲碁同好会へのお誘い

囲碁同好会は、毎月第2土曜日の午後、中之島の青雲会交流センターで例会をもっています。毎回10名前後の出席があり、都合の良い時間にお出で願い、またお帰りいただいて結構です。また、囲碁同好会では、1月の全大阪大学囲碁大会、5月の日本棋院関西総本部での囲碁同好グループの対抗戦、8月の同好会年次大会、10月の現役囲碁部学生との交流戦等のイベントも行っています。囲碁に興味のおありの方の参加を歓迎します。



お問い合わせは TEL:06-6339-7747

幹事 山口 勝之(13期)まで メール:esakalawoffice@gmail.com

### 「白球を追って」青雲会 ゴルフコンペ

「青雲会」ゴルフコンペ 年2回開催(5月・11月)ぜひご参加を(詳細は事務局へ)

20年・30年ぶりに懐かしい同窓のメンバーが顔を合わせ、冗談を交わしながら、お互いの健康を喜ぶ会です。

新しいメンバーの多数のご参加をお願いします。

参加ご希望の方は、

「青雲会」事務局  
(06-6850-5198)

までご一報ください。



## 第14期 青雲会奨学生(法学部留学生) 座談会

平成25年度の青雲会奨学生は、中国出身の馬 榮陽さんです。野村会長からお話を伺います。

**野村** 阪大法学部の同窓会である青雲会は、海外からの留学生を少しでも支援しようと、14年前から奨学金支給制度を実施しています。今年是中国出身の馬 榮陽さんです。

中国のどちらの出身ですか。

**馬** 天津市です。北京の近くにあります。

**野村** そこでの生活、ご家族の状況などをお話ください。どういふことで、日本の大阪大学に留学されるようになったのですか。

**馬** 母が3年前から大阪に来て貿易関係の仕事をしていて私も日本に魅力を感じました。父は友人と会社を営み、おじさんも日本の自動車会社の天津支社で働いています。

**野村** 大学では何を専門に研究されますか。将来はどういふ仕事に就こうと考えておられますか。

**馬** 大学では経済に興味があり、卒業後は大学院で更に勉強したいと考えています。

**野村** どのようなアルバイトをされていますか。

現在どこにお住まいですか。

**馬** 北区の天神橋に住んでいて、家の近くのコンビニで週2~3回アルバイトしています。



**野村** 日本の料理は好きですか。

趣味は何ですか。

**馬** お寿司が好きで、安くておいしい近くの寿司屋さんに良く行きます。

お好み焼きもとても好きです。納豆は苦手です。

趣味は旅行です。母とイギリスに行きました。また母と北海道に行く予定にしています。

**野村** 本日はお忙しいところに来て頂いて有難うございました。青雲会としては、今後とも勉強されてご活躍されることを願っています。

今年の総会は7月19日(土)に開催しますので、是非ご出席ください。

## 面白くてためになる青雲塾へ!

青雲塾担当 松井 繁幸(23期)

青雲会会員の他、会員の紹介のあった人も大歓迎。講師の自薦・他薦、企画の持ち込みも。過去の実績の詳細、次回案内もホームページをご覧ください。

<http://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/>

なお、昨年度の開催内容は次のとおりです。

### 2013年

7月 5日(金) <第41回> 織田作之助の生誕百年記念

「織田作之助と小説『夫婦(めおと)善哉(ぜんざい)』」

講師 上(かみ) 孟二(たけじ) 氏 (織田作之助 研究家)

★上講師は、織田作之助が戦時中の徴兵検査で徴集免除となったことを通達する文書を、たまたま購入した古本から発見され、新聞紙上で大きく取り上げられました。

10月 2日(水) <第42回> 織田作之助の生誕百年

「織田作之助の凄(すご)いところ」

講師 三島 佑一 氏 (四天王寺大学 名誉教授・船場大阪を語る会 会長)

★「織田作之助の本領は、川端康成や梶井基次郎が嫌った大阪の俗の中に入って徹底的に書きまくった。大阪の俗を熱愛したところにあります。」「大阪独立して大阪政府がお札を発行したら、五千円に男前の織田作の写真を載せたらいいと思いますね。」(三島講師)

### 2014年

1月22日(水) <第43回>

「取材の現場 -グリコ・森永事件など-」

講師 小橋 繁好 氏 (18期)

★「大阪万博の年に新聞記者になり、30年間、在籍しました。いま思えばジャーナリズムのなかで、新聞が一番輝いていた時代かもしれません。そうした活動の一端をお話しできればと思っています。」(小橋講師)



▲取材の現場に向き合ってきた小橋講師(中央)(備後町クラブ)

## 活躍する卒業生 I

65歳からがおもしろい  
「ホンマでっか!?!」人生

キャリアコンサルタント  
砂山 擴三郎 (14期)

「〇〇先生入ります」

マツコ・デラックスさんやブラックマヨネーズさんといった芸能人の面々と並んで、「1を聞けば10を返す頭脳軍団」と称される6~7名の評論家たちが一人一人名を呼ばれてスタジオに入る。多数の観客と制作スタッフの歓声と拍手に迎えられる晴れがましい瞬間だ。最後にお笑い界の大御所、進行役のご存じ明石家さんまさんが登場してよいよ収録がスタートする。

フジテレビ(大阪では関西テレビ)で水曜のゴールデンタイムに放送されている人気バラエティー番組「ホンマでっか!?!TV」の収録風景だ。「リストラ評論家」という珍妙な名前を冠されて、2年半前からこの番組に出演しているのが私である。



収録は通常土曜日、東京のお台場にある巨大なスタジオビルで2回から3回分を1日で撮っていく。担当ディレクターとの簡単なリハーサルや打ち合わせ、出演者との顔合わせ、カメラテスト、メイキャップなどいろいろとやることがあるため、出演時は収録開始の2時間前にはスタジオ入りするようにしている。もろもろが済むと、スタジオ隣の控室に移動し、無線マイクを装着してもう一度メイクを整えて、あとは本番を待つばかりだ。

「もう場馴れしただろう」とよく言われるが冗談ではない。こちらは70歳を迎えた素人、何回出ても馴れることはない。数日前から自宅でネタの練習を繰り返す、寝られず食えず状態の強い緊張とストレス状態に包まれる。女房を含めて誰も信じてはくれないが、スタジオに案内されるときは市場に引かれていく牛さながらで、口はカラカラ・身体はワナワナ・心臓はドキドキ・汗びっしょり状態だ。

始まれば始まったで、のっけから進行台本そっちのけの展開、さんまさん一流の脱線につぐ脱線のいじくりで進んでいく。何を言ってもさんまさんから爆笑され、オチヨクられ、観客からは失笑され、顔面蒼白となって立ち往生すること



もしばしばの有様。笑われてなんぼのバラエティー番組と割り切り、自分のキャラを忠実に演じなければならないのが辛いところだ。必要に迫られて歌謡曲を唄ったことさえある。

出演するたびにきまって思うのは、「もう無理や、これで最後やな」ということだ。それでも懲りずに出てしまうのは、収録後の帰途でビールを飲んだ時の「終わったぞ」という何とも言えない解放感と「ヤッター」という充実感を味わいたいからだろう。一言でいうと、「生きている」という実感が真底味わたるのだ。

テレビ出演をしだしたきっかけは、67歳の時に出した2冊目の著作「仕事のできるあなたが、なぜリストラされるのか」(ダイヤモンド社刊)から生まれた。この本を読んだTV局番組制作スタッフから出演打診が来たのである。どうも大阪人らしいノリとしゃべくりが番組の波長に合った様で、初出演後は「砂山劇場開幕」「大型新人評論家大爆発!」などの番宣を打たれ、一昨年は毎月のように同番組に出演することとなった。有難いことに、TV出演効果で拙著がアマゾンのカテゴリーランキングで1位になった時期もあり、これは誇らしい勲章だ。

昨年はTV出演を控えめにして執筆に全力を挙げ、2冊のビジネスハウツー本を上梓した。そろそろ賞味期限切れ、静かに消え去るのみかなとも思う反面、お呼びがかかる限りは頑張るかな、との葛藤をしている今日この頃だ。66歳からの4年間で計4冊もの本を出し、テレビ出演までするようになるとは、60歳の頃には想像もしていなかった。ちなみに現在5冊目の本の準備もはじめている。

何事もやり直しがきかないのが人生、65歳過ぎからの第四コーナーの思わぬ生き様を今は存分に楽しむのみだろう。サラリーマンにとってはなほだ不本意で愉快ではない2回のリストラ体験が、その引き金となっているのだから「世の中はおもしろい」とつくづく思う。



## 活躍する卒業生 II



## 「ある法務員の1コマ」

小野薬品工業株式会社  
法務部

藤原 美由季 (59期)

大学で法律を学んできたこともあり、将来はその知識を生かして働きたいと考えていました。運良く法務部員として現在の会社に入社することができ、充実した日々を送っています。

法務部の業務は多岐にわたりますが、主な業務は株主総会の運営と契約書の審査です。株主総会の運営は、会社法に定められた手続きや期限に従って行わなければなりません。実際には、株主名簿管理人である信託銀行の方々にも多大なご支援をいただきますが、事業報告書の内容の確認や、株主総会の招集通知の作成、想定問答集の準備は自社で行っています。万一不手際があれば、株主総会取消訴訟の対象になってしまう可能性もありますので、株主総会の準備には、最大限の注意を払っています。

大学生時代、会社法も学習してはいましたが、ほとんどの用語が馴染みのないものであり、イメージができず、非常に苦勞したのを覚えています。実際に会社の実務に携わってみて、実物を直接見ることで、初めて会社法を少し理解できた気がしました。もちろん、学生時代に会社法を学んでいたからこそ、スムーズな理解に繋がったように思います。大げさかもしれませんが、何事も、たとえ最初はわからなくても、まずやってみれば、いつかは結果がついてくると考えた出来事でした。

契約書の審査は、重箱の隅をつつくような作業が満載です。法律に違反していないかどうかの確認は当然ですが、各条項がそれぞれ矛盾していないか、使用されている用語が統一されているか、わかりにくい文言はないか、などを細かく確認していく必要があります。契約書が曖昧なものであれば、紛争の原因になってしまうため、毎回気

を引き締めるようにしています。

最近では、会社の海外進出に伴い、英文契約書を確認する機会も増えてきました。法律英語の特殊性や、英文契約書の独特な構造に、最初のうちは読むだけでも非常に時間がかかりました。また、英米法の知識も必要になるため、教科書を購入して勉強する必要も出てきました。大学生時代に英米法を学習していればよかったと後悔することも多いですが、少しずつでも手探りで前進しているところです。

最終的には、海外の契約相手や弁護士と直接やりとりできるようになるためにと、昨年の4月から9月にかけて、イギリスに語学留学する機会にも恵まれました。語学学校では、多くの非英語圏出身のビジネスパーソンと交流することができ、視野を広めることができたように感じています。特に、女性役職者の多さには非常に驚きました、もちろん、役職の数や考え方は、日本と欧米で大きく異なっているため、一概に比較はできませんが、それでもビジネスのために英語を学びに来た方々の意識は非常に高く、自らの仕事に誇りを持っている姿はとても印象的でした。私も、彼女たちに近づけるよう、日々努力していきたいと考えています。



# 60周年記念基金への寄附金 ありがとうございました

## 60周年記念基金寄附者芳名録

下記の皆様から寄附金をいただきました。

法人	卒業生	新制11~20期	新制21~30期
三井住友信託銀行株式会社	永山久夫	荒西宏保	中本勝
株式会社イケテイ	増田輝夫	根本紀夫	秋吉秀樹
株式会社ダイヘン	三輪省三	神田三嗣	秀平吉朗
和田哲株式会社	渡辺洋一	植田稔健	北岡満
株式会社ワークデザイン	中川喜市	海上征男	中川和男
堀川建設工業株式会社	目崎昭司	中谷一夫	中濱文旦
	樋口三郎	蓬知代朗	篠原哲夫
	弦川功毅	野口忠男	笹山徹
	関本毅	土田裕美	高山幹男
	新制1~10期	公地林美	小野雅裕
	武村富治夫	高松紀男	川崎全司
	佐竹理	瀬野義和	北山陽一
	當別當季正	佐々木俊明	山本茂伸
	山本光二	樋口浩	河崎昭男
	遠田義昭	植田潤次郎	川崎裕子
	西村作二	藤田邦彦	前田厚一
	若井寿男	池田昌光	永田陽一
	安藤寛	宮本進	松岡純二
	小埜潤	宿敏幸	松井直樹
	白井淳二	中村勝英	置田文夫
	大野達也	松澤寛	十亀理
	高橋克彦	藤井均	松井繁幸
	尾池良行	石井忠昭	南川博茂
	嶋田誠久	山口勝之	後岡良知
	河島潔	藤原精吾	加堂裕規
	藤原昭嘉	小林昌則	山本益嗣
	藤原達雄	小平松通朗	
	内田博之	寺川澄	
	塚口純行	伊東弘之	
	牧野利秋	小西秀正	
	松田節子	西村元昭	
	魚谷博紀	田畑勝久	
		石井辰雄	
		吉村勝彦	
		松本正	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	
		田中嘉彦	
		大山隆司	
		鎌倉国年	
		小池林克彦	
		平栗勲	
		冠木克彦	
		中島邦昭	
		植田重則	
		大島忠	
		武本尚	
		松井英樹	
		高橋文仲	
		倉本健二郎	
		平野鷹子	
		吉川直樹	
		白井勉	
		岡村一美	
		福田勝司	
		広田好彦	
		山田芳郎	
		森内賢一	
		前川久夫	
		黒田嘉次郎	
		油野勤	
		守屋雅美	
		堀田文一	
		谷本勇身	
		溝口清人	
		道願嘉信	
		仲田正徳	
		中長昌一	
		森岡信彦	
		蝶名利彦	
		西田正秀	
		坂和章	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	
		田中嘉彦	
		大山隆司	
		鎌倉国年	
		小池林克彦	
		平栗勲	
		冠木克彦	
		中島邦昭	
		植田重則	
		大島忠	
		武本尚	
		松井英樹	
		高橋文仲	
		倉本健二郎	
		平野鷹子	
		吉川直樹	
		白井勉	
		岡村一美	
		福田勝司	
		広田好彦	
		山田芳郎	
		森内賢一	
		前川久夫	
		黒田嘉次郎	
		油野勤	
		守屋雅美	
		堀田文一	
		谷本勇身	
		溝口清人	
		道願嘉信	
		仲田正徳	
		中長昌一	
		森岡信彦	
		蝶名利彦	
		西田正秀	
		坂和章	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	
		田中嘉彦	
		大山隆司	
		鎌倉国年	
		小池林克彦	
		平栗勲	
		冠木克彦	
		中島邦昭	
		植田重則	
		大島忠	
		武本尚	
		松井英樹	
		高橋文仲	
		倉本健二郎	
		平野鷹子	
		吉川直樹	
		白井勉	
		岡村一美	
		福田勝司	
		広田好彦	
		山田芳郎	
		森内賢一	
		前川久夫	
		黒田嘉次郎	
		油野勤	
		守屋雅美	
		堀田文一	
		谷本勇身	
		溝口清人	
		道願嘉信	
		仲田正徳	
		中長昌一	
		森岡信彦	
		蝶名利彦	
		西田正秀	
		坂和章	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	
		田中嘉彦	
		大山隆司	
		鎌倉国年	
		小池林克彦	
		平栗勲	
		冠木克彦	
		中島邦昭	
		植田重則	
		大島忠	
		武本尚	
		松井英樹	
		高橋文仲	
		倉本健二郎	
		平野鷹子	
		吉川直樹	
		白井勉	
		岡村一美	
		福田勝司	
		広田好彦	
		山田芳郎	
		森内賢一	
		前川久夫	
		黒田嘉次郎	
		油野勤	
		守屋雅美	
		堀田文一	
		谷本勇身	
		溝口清人	
		道願嘉信	
		仲田正徳	
		中長昌一	
		森岡信彦	
		蝶名利彦	
		西田正秀	
		坂和章	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	
		田中嘉彦	
		大山隆司	
		鎌倉国年	
		小池林克彦	
		平栗勲	
		冠木克彦	
		中島邦昭	
		植田重則	
		大島忠	
		武本尚	
		松井英樹	
		高橋文仲	
		倉本健二郎	
		平野鷹子	
		吉川直樹	
		白井勉	
		岡村一美	
		福田勝司	
		広田好彦	
		山田芳郎	
		森内賢一	
		前川久夫	
		黒田嘉次郎	
		油野勤	
		守屋雅美	
		堀田文一	
		谷本勇身	
		溝口清人	
		道願嘉信	
		仲田正徳	
		中長昌一	
		森岡信彦	
		蝶名利彦	
		西田正秀	
		坂和章	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	
		田中嘉彦	
		大山隆司	
		鎌倉国年	
		小池林克彦	
		平栗勲	
		冠木克彦	
		中島邦昭	
		植田重則	
		大島忠	
		武本尚	
		松井英樹	
		高橋文仲	
		倉本健二郎	
		平野鷹子	
		吉川直樹	
		白井勉	
		岡村一美	
		福田勝司	
		広田好彦	
		山田芳郎	
		森内賢一	
		前川久夫	
		黒田嘉次郎	
		油野勤	
		守屋雅美	
		堀田文一	
		谷本勇身	
		溝口清人	
		道願嘉信	
		仲田正徳	
		中長昌一	
		森岡信彦	
		蝶名利彦	
		西田正秀	
		坂和章	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	
		田中嘉彦	
		大山隆司	
		鎌倉国年	
		小池林克彦	
		平栗勲	
		冠木克彦	
		中島邦昭	
		植田重則	
		大島忠	
		武本尚	
		松井英樹	
		高橋文仲	
		倉本健二郎	
		平野鷹子	
		吉川直樹	
		白井勉	
		岡村一美	
		福田勝司	
		広田好彦	
		山田芳郎	
		森内賢一	
		前川久夫	
		黒田嘉次郎	
		油野勤	
		守屋雅美	
		堀田文一	
		谷本勇身	
		溝口清人	
		道願嘉信	
		仲田正徳	
		中長昌一	
		森岡信彦	
		蝶名利彦	
		西田正秀	
		坂和章	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	
		田中嘉彦	
		大山隆司	
		鎌倉国年	
		小池林克彦	
		平栗勲	
		冠木克彦	
		中島邦昭	
		植田重則	
		大島忠	
		武本尚	
		松井英樹	
		高橋文仲	
		倉本健二郎	
		平野鷹子	
		吉川直樹	
		白井勉	
		岡村一美	
		福田勝司	
		広田好彦	
		山田芳郎	
		森内賢一	
		前川久夫	
		黒田嘉次郎	
		油野勤	
		守屋雅美	
		堀田文一	
		谷本勇身	
		溝口清人	
		道願嘉信	
		仲田正徳	
		中長昌一	
		森岡信彦	
		蝶名利彦	
		西田正秀	
		坂和章	
		朝田裕之	
		永淵弘幸	
		砂山擴三郎	
		岩根正尚	
		原田雅男	
		中川清孝	

このたびは、法学部60周年、高等司法研究科10周年、青雲会60周年の記念基金に対してご寄附を賜り、誠にありがとうございました。3月末をもって寄附の募集を終了させていただきました。

お蔭様で法人及び教員を含めて会員の皆様 491名の方々から 13,692,250円のご寄附を頂戴いたしましたのでご報告いたします。

皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

ご寄附をいただきました方々への感謝の意を込め、ここに御芳名を掲載させていただきます。掲載を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

渡 辺 博 夫	中 島 敬 方	藤 井 修 治	浪 原 将 史	井 上 裕 史
上 田 博 行	平 木 秀 男	原 章	吉 森 智 広	
藤 野 浩 二	西 畑 一 哉	大 原 千 秋	重 村 禎 昭	<b>教 員(元教員)</b>
三 好 勝	宮 内 誠 治	戸 川 恵 雄	小 栗 功 久	山 中 永 之 佑
藤 木 久	古 木 新 一	味 能 弘 之	岸 本 孝 二	吉 本 健 一
森 宏 司	酒 井 将 治	高 橋 紀 子	中 川 正 義	床 谷 文 雄
藤 田 正 夫	玉 田 敏 郎	池 端 玉 治	上 地 浩 之	滝 口 剛
森 信 静 治	藤 本 政 彦	<b>新制31~40期</b>	嶋 津 裕 介	水 谷 規 男
片 岡 和 行	深 川 優 一 郎	苗 村 博 子	木 村 真 也	下 村 眞 美
鈴 木 浩	北 川 雅 之	林 和 彦	松 尾 吉 洋	茶 園 成 樹
田 中 総 司	近 藤 利 子	川 見 岳 司	植 木 和 彦	松 本 和 彦
岩 本 洋 子	鉄 本 哲 彦	江 尻 禎	堀 木 由 紀	高 橋 慶 吉
垂 井 浩	亀 井 克 一	横 川 雄 一	石 井 キ ミ	水 島 郁 子
楠 久 尚	住 野 陽 一	前 西 信 男	小 野 誓 子	谷 口 勢 津 夫
小 川 雅 夫	幸 田 武 史	西 田 雅 哉	邨 上 師 央	品 田 智 史
能 勢 治 彦	桐 野 伸 一	山 口 利 昭	山 浦 美 卯	上 川 龍 之 進
熊 沢 衛 司	筏 井 孝	櫛 田 和 代	大 山 和 伸	松 田 岳 士
安 田 光 男	野 村 史 郎	團 潤 子	吉 永 佳 史	田 中 仁
木 村 清 志	中 尾 充 史	紀 藤 正 樹	今 井 力	高 井 裕 之
松 原 敏 美	三 好 伊 佐 夫	水 谷 佳 子	宮 宅 宏 和	山 下 典 孝
鋤 納 健 治	山 本 明 人	眞 野 淳	満 田 泰 広	長 田 眞 理
桂 嘉 宏	土 本 育 司	横 田 壽 男	和 気 良 浩	福 井 康 太
山 本 貢	針 原 祥 次	宮 本 圭 子	坂 和 宏 展	青 木 大 也
藤 澤 義 一 行	福 間 則 博	岩 谷 敏 昭	秋 葉 一 行	三 成 賢 次
宮 田 克 行	松 村 聡	塩 野 隆 史	権 野 裕 介	武 田 邦 宣
林 昭 男	中 川 敦	塚 本 あ かね	日 沖 健	中 尾 敏 充
藪 田 智 成	松 下 眞 治	片 岡 利 雄	中 島 康 平	三 阪 佳 弘
野 澤 敏 夫	山 本 哲 男	岩 井 泉	新 納 宏 一	久 保 大 作
吉 田 幸 作	鮎 川 堅 一	浅 井 健 太	大 橋 優 太	青 江 秀 史
権 藤 健 一	岩 倉 広 修	西 井 秀 行	三 好 雅 人	竹 中 浩
松 本 克 己	池 堂 芳 郎	丹 野 富 美 恵	中 間 三 有 希	仁 木 恒 夫
甲 斐 直 也	内 藤 欣 也	中 村 眞 澄	麻 生 川 典 晃	
池 田 泰 弘	福 田 健 次	服 部 敬 司	醍 醐 龍 馬	<b>同 期 会</b>
濱 津 俊 男	牧 眞 千 子	川 井 敬 司	山 際 翔	昭和47年入学同期会
笹 野 明 義	三 嶋 茂	富 上 智 子		昭和50年入学同期会
鋤 納 美 佐 子	那 須 裕 之	末 永 久 美 子	<b>L S 等</b>	
繁 田 明 男	酒 井 昭 規	鬼 崎 はじめ	永 野 盛 司 郎	
木 崎 正	藤 井 研 一 郎	<b>新制41~61期</b>	辰 野 眞 也	
田 中 公 二	西 久 保 裕 彦	濱 田 雄 久	山 本 直 久	
糸 原 直 彦	三 木 秀 夫	勝 田 五 月	松 井 圭 子	
岡 島 隆 司	高 部 順	大 前 治	幸 尾 菜 摘 子	
佐 藤 建	河 野 泰 介	城 津 和 晃	西 塚 直 之	
和 田 謙 一	内 藤 早 苗	高 田 鮮	堀 金 博	(敬称略 順不同)

# 青雲会(同窓会) 会員名簿発行のご案内

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。青雲会員の皆様には日頃、ひとかたならぬご協力、ご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、この度同窓生の相互の親睦や交流を深め、会の益々の発展のため、平成21年以来、5年ぶりに「青雲会会員名簿」を発刊する運びとなりました。青雲会としましては、名簿発刊を機に、旧交を温めるなど、皆様の繋がりが今後一層深まれば、これにまさる喜びはございません。

しかしながら、ご卒業後多方面、各地でご活躍の皆様の所在を、全て把握しかねるのが現状です。より充実した情報を掲載するためには、皆様のご協力を賜るほかございません。

つきましては、内容のある名簿を発行するために、会員皆様の現況情報を必ず同封の「名簿調査票」にてお知らせ下さい。(インターネット・FAXによるご連絡も受付けておりますので是非ご利用ください。)

また、この度の名簿・賛助金・広告掲載等のお申込みもあわせてお願い申し上げます。 敬具

青雲会(大阪大学法学部同窓会) 会長 野村 史郎

## 2014年11月発行 3,500円(送料・税込)

[名簿は全て予約販売ですので発行後の在庫はありません。]

### 名簿の特色

- A4判 約600頁・並製本 ● 業種別索引・人名索引付
- 創立から平成26年3月卒業生までを全収録
- 氏名(旧姓)・自宅(〒・住所・TEL・FAX・Eメール)  
勤務先(〒・住所・TEL・FAX・Eメール)・出身高校・出身ゼミ
- 平成26年9月中旬迄の調査によるコンピュータ編集の最新版です。

### 賛助金・賛助広告にご協力を!

名簿作成経費捻出の為、賛助金・広告を募っておりますのでご協力願います。

(名簿は1冊進呈します)

### 内容変更・お申込みは

青雲会ホームページの [会員のページ](#) からご利用できます。

<http://www.seiunkai.net/>

24時間  
受付

(注)名簿への内容変更・お申込みの締切りは  
平成26年9月19日(金)迄とさせていただきます!

ご利用には同封の「名簿調査票」に記載されている  
「会員ID・パスワード」が必要です。

会員ID・パスワードの再発行は、本人確認等の手続きで時間を  
要しますので紛失等にご注意ください。  
また、発行後は第三者に知られないように大切に保管してください。

青雲会では、会員皆様の個人情報を「会員相互の連絡及び親睦を図り法学部の発展に資することを目的とする活動」などのご案内のために利用させて頂いております。それ以外の目的で利用することはありません。また、これらのご案内が不要な場合は、発送を停止させて頂きまますので、お手数ですが下記までご連絡ください。

名簿発行については青雲会によって企画・決議され、前回同様(株)絆コーポレーション(旧(株)アーツ)に調査・編集の業務を委託しておりますが、データの不適切な取扱いのないよう、「データ管理契約」を結び、内容を遵守して作業にあたっております。ご安心下さい。  
名簿の内容を正確にするため、調査票の印字内容をご確認の上、必ずご返信いただきますようお願い致します。返信の無い場合は、印字データが掲載されますのでご了承下さい。FAXによるご返信も受けております。

 青雲会(大阪大学法学部同窓会)事務局

〒560-0043 豊中市待兼山町1-6大阪大学大学院法学研究科内

TEL・FAX (06) 6850-5198

E-mail [ishibashi@koyu.net](mailto:ishibashi@koyu.net)

# 60th anniversary

## 「青雲会 (同窓会) 会員名簿」購入申込予約方法

2014年  
11月発行予定  
¥3,500  
(送料・税込)

- ① 同封の青雲会名簿作成用調査票の名簿購入申込欄に○印をつけ、調査票を切り取って、専用の返信用封筒(会報に同封しております)にてご返送ください。
  - ② 別途、ご案内状と振込用紙を後日、お送り致します。
- ※賛助金・賛助広告をお申込みの方も、調査票のそれぞれの申込欄に○印をつけてご返送ください。
- (注) 調査票は、購入を希望されない方でも記載データ確認の為、必ずご返送ください。

# 会員名簿に記載されるあなたのデータを必ずご確認ください。

(正しい情報を同封の〈調査票〉で至急 青雲会事務局あてにご回答ください。)

### 〈調査票〉記入の注意事項

- 印字されたあなたのデータの各項目をよくご確認ください。
- 訂正される場合は、楷書で、正確にお書きください。

### 青雲会 名簿作成用調査票

現在の登録情報が印字されていますので、必ずご確認ください。



### 〈調査票〉の正しい記入例

氏名の変更は必ずフリガナをつけてください。

お問い合わせNo. 事務局へのお問い合わせには、「お問い合わせNo.」をお知らせください。

**注** ご注意ください!  
この□には、名簿に記載したくない項目にをおつけください。

勤務先は、古いデータが記載されていますので特に厳重にチェックしてください。

ご本人以外の方がご記入の場合は**氏名・続柄**をご記入ください。

海外在住者で、海外住所の記載を希望される方は訂正欄に、活字体ではっきりご記入ください。(国名も忘れずにご記入ください。)

青雲会 名簿作成用 調査票		内容変更	
上記の記載内容をご確認の上、訂正・変更のみご記入ください。ご記入が無い場合は登録情報の記載内容のまま掲載されます。			
フリガナ	姓	旧姓	名
氏名の訂正・改名の区別 <input type="checkbox"/> 訂正(誤字、等) <input type="checkbox"/> 改名(結婚、等による)			
自宅(連絡先)変更訂正	No. / /		FAX / /
自宅Eメール	@		
業界分類No.	職種		具体的にお書きください。
勤務先名(部課・役職)変更訂正	No. / /		FAX / /
勤務先所在地変更訂正	No. / /		FAX / /
勤務先Eメール	@		
出身高校	出身ゼミ		
<input type="checkbox"/> 自・住 <input type="checkbox"/> 自・FAX <input type="checkbox"/> 自Eメール <input type="checkbox"/> 自・住 <input type="checkbox"/> 自・FAX <input type="checkbox"/> 自Eメール <input type="checkbox"/> 高校・ゼミ			
<b>注意</b> 右のボックスに <input checked="" type="checkbox"/> を入れると、その項目は掲載されません! 印字データに変更・訂正が無い場合も必ずご返信下さい。			
調査票記入者	ご本人・代理人(氏名):		続柄: ) 記入日 / /
この票をFAXしていただいても結構です。FAX06-6948-5291(名簿編集事務局)			

### 申込欄

- 下記 1~4 のいずれかを○でお囲み下さい。
- 1・3・4 の方には後日案内状をご送付します。

**購入申込**

- 名簿 **3,500円** (送料・税込)
- 1. する 2. しない

**賛助金申込**

- **10,000円** (名簿1冊進呈)
- 芳名録に氏名を掲載
- 3. 賛助金申込

**賛助広告**

- 1/1頁8万円 1/2頁6万円
- 1/4頁3万円 1/8頁2万円 (名簿1冊進呈)
- 4. 広告希望

★〈調査票〉はお早めにご返送ください。ご返送のない場合は、そのまま記載されます。

## 青雲会からのお願い

現在の会費は入会金 10,000円 年会費 3,000円となっていますが、  
 会費の納入率は年々低下し、青雲会財政は赤字となっています。  
 そのため今般下記のとおり会費規程の改正を予定し総会でご審議いただきます。  
 何卒よろしくお願ひします。  
 併せて年会費の納入をお忘れなくお願ひします。

### 会費規程改正

(現行)

- 第1条 徴収金額は次の通りとする  
 ①入会金 10,000円 ②会費年額 3,000円
- 第2条 正会員及び特別会員からは入会金並びに毎年会費金額 3,000円を徴収する
- 第3条 入会金(10,000円)及び5ヶ年分の会費(15,000円のところ10,000円に減額の上)を準会員期間中に徴収することができる

(改正予定案)

- 第1条 徴収金額は次の通りとする  
 ①入会金 20,000円 ②会費年額 3,000円
- 第2条 正会員及び特別会員からは入会金並びに毎年会費金額 3,000円を徴収する 但し平成26年以前に入学して従前の規定により入会金及び5ヶ年分の会費を支払っていた者はその卒業後5年の会費を支払済みと取扱う
- 第3条 入会金 20,000円を準会員期間中に徴収することができる

## 平成27年度 大阪大学大学院高等司法研究科(LS)入試説明会のご案内

招待講演

室谷 光一郎 弁護士 (大阪大学大学院高等司法研究科OB・司法修習62期)《大阪弁護士会所属・ドラマ“リーガル・ハイ”法律監修》

日時

平成26年6月21日(土) 12:45 受付開始  
 13:00-14:20 講演・質疑応答  
 (休憩)  
 14:30-15:00 一般選抜・特別選抜入試説明

場所

大阪大学中之島センター 201号室

※今年の特別選抜入試は、東京会場でも受験が可能です。  
 選抜試験の詳細については、募集要項やHPの情報等をご覧ください。

### 青雲会 役員名簿

任期25年4月1日~27年3月31日

役職	氏名	期	担当
名誉会長	竹中 浩		
会長	野村 史郎	27期	
幹事長	三輪 省三	旧制1期	
副会長	山本 茂伸	22期	総務*総会(副)
副会長	松井 繁幸	23期	青雲塾*総務(副)
副会長	片岡 和行	24期	総務*就職支援(副)
副会長	松本 克己	26期	総会*就職支援(副)
副会長	西井 秀行	36期	就職支援*総会(副)
副会長	松本 綾	40期	留学生*若手・女性活性化(副)
副会長	嶋津 裕介	45期	若手・女性活性化
副会長	堀木 由紀	46期	会報*懸賞論文(副)
事務局	黒田 嘉次郎	18期	
懸賞論文審査	西畑 一哉	27期	懸賞論文
懸賞論文審査	川上 良	39期	懸賞論文

### 平成25年度決算報告と平成26年度予算 概要

(単位:千円)

収入の部			支出の部		
項目	平成25年度 決算	平成26年度 予算	項目	平成25年度 決算	平成26年度 予算
会費収入	6,468	6,240	総会費	388	980
懇親会収入	388	990	会報費	2,100	2,150
その他収入	197	270	留学生奨学金	480	450
			ローヤリング	300	300
			司法基金援助	400	400
			ソフト維持費	378	390
			懸賞論文	269	270
			支部助成金	520	420
			一般助成金	297	240
			人件費	916	920
収入計	7,053	7,500	その他経費	1,019	980
			支出計	7,067	7,500

収支差額		△14	0
前期繰越金		4,379	4,379
次期繰越金		4,379	4,379

※本案は総会でご審議いただきます。

### 青雲会事務局よりお知らせ

●宛名印刷をご利用ください。

パソコンのシステム近代化に伴い、宛名印刷が出来るようになりました。皆様の同窓会開催案内等にご利用ください。(費用:無料)

事務局は、大阪大学豊中キャンパス(石橋)、大学院法学研究科棟2階にあります。午前9時30分~午後3時30分(11時30分~12時30分昼休み)に在室しています。会員の皆様のご連絡をお待ちしております。

TEL.06-6850-5198

青雲会事務局 黒田嘉次郎(18期)